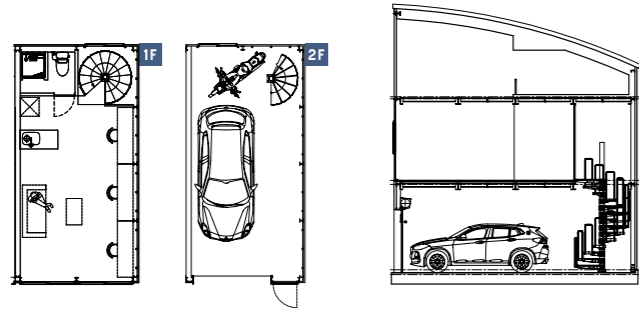


Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI Drafting/Reo KIRIBUCHI, Sena HAYAKAWA

FLOOR PLAN

プランは従来からお馴染みのガレージアパート GLB とほぼ同じ仕様。但し住居系の計画が不可の地域なので、ユニットバスは装着せず、ユニットシャワーの装着になる見込み。最も今ときは、むしろ居室が広くて好都合という発想もあり、むしろシャワーで十分の話もありますが……。



午前9時着の羽田便で、空港に降り立った男は、そそくさとエアターミナルからタクシーに乗りこみ、行き先を「京浜島」と告げた。運転手は怪訝に思う。「京浜島と言えば、人の住まない工場地帯のど真ん中だ。この時間に京浜島？ この男は何者なのか……？」という書き出しで始まるハードボイルド小説がすらすらと書けてしまうような、GLB型賃貸ガレージ企画が計画進行中です。

場所は東京湾に浮かぶ羽田空港からわずか10分の距離の人工の島、京浜島。もともと海の真ん中だった場所だけに、夜釣りやバードウォッチングの穴場なのですが、ここは全くの臨海コンビナート。ですから工場萌えの人には垂涎の場所でもあります。甘ったるさの全くないハードボイルド

な風景に、むしろ安らぎを感じるモーターフリークが必ず存在するという確信の元に生まれた全くの新企画なのです。かつて1920～30年代は“マシン・エイジ（第一機械時代）”と呼ばれました。クルマや航空機、硬質なデザインなどが急激に発達した時代です。その後、世界は大戦の混乱期に突入り、マシンエイジは時代の特長とはみなされなくなりましたが、いわば20世紀はマシンエイジの延長戦の年代ともいえるわけです。

21世紀の世界はコロナバニックを経てネットワーク型の分散社会へと大きく変化しようとしています。そんな中で巨大都市に隣接したこのエアポケットのような場所は、マシンエイジの最後の残り香がプンプンする空気感。夜には全く人影がなく、エンジン音とオイルの香りが似合う場所。そしてなぜか近未来社会を描いたSF映画の風景にも似ています。建築の企画は極めてシンプルで、従来のガレージアパート GLB 型の賃貸ガレージです。その空間はお馴染みのスチームバンクな艶消し鉄骨の素材感の世界。この地域は居住用としては用途が制限されているため、あくまで仮眠もできるガレージという企画になります。秘密のマシンを格納しておくアジトとしては、絶好の環境なのです。また月に2～3回仕事で東京に来るクルマ＆バイク好きの地方在住の方ならば、羽田からタクシーでここに来て、ガレージに息をひそめる愛機のエンジンに着火、爆音を響かせて一気に都心のホテルへという映画の主人公のようなライフスタイルが可能です。誰にも知られず、秘蔵のマシンを格納しておく場所として、このエアポケットは最適なのです。ここからエンジン音を自由に響かせて、夜の湾岸線を誰にも知られず疾走してください。賃貸募集開始はほどなく開始されます。続報をご期待ください。



大都会のエアポケットを使い倒す 京浜島“アジト・ガレージ”の快樂

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



コロナによる“密”への回避で、すっかり人気なくなった東京ですが、こんな形の東京愛はいかがでしょうか？
賃貸ガレージハウスの極限、コンビナートにある“アジト”です。



京浜島ガレージから愛機で湾岸の高速道路、そして都心のビルの谷間を疾走する快樂は、ドラマのワンシーンのようなハードボイルド感全開です。一言の会話もない世界でも、マシンの鼓動を全身で感じているだけで、身体の躍動感とこの上ない充実感に満たされていきます。



1 漆黒の夜空に、鋭く光る金属色の煙突が20世紀人をゾクゾクさせるのは、坂口安吾も書いていた通り、余分な要素や煽りするような意匠がなく、ただひたすら目的のための建造物だからかもしれません。そして、艶消し鉄骨の構造体であるGLBが、同じ思想に貫かれてベストマッチに建築される様はある意味現代の奇跡。しかもその目的が脳細胞を刺激する“遊び”のためなのだからなおさら興奮するのです。

2 ここに格納するマシンは何が最適か？ いろいろ議論がありますね。フェラーリやランボルギーニ等のカウルの強調されたマシンが最適という説もありますが、デイトナハウスの的にはヒップラインが強調されたアメ車や日本車の旧車が、むしろ近未来感を演出すると思えました。どいへん議論は尽きないのでね。



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウス×LDKの建築システムを構成するのが軽量鉄骨のLGSパネル。厚さ3mm～4mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅182cm、縦270cmの長方形に溶接して製作。デイトナハウスは、この基本の形を連結することで、住宅やガレージのみならず、別荘、店舗、賃貸住宅などの様々な建築を作っていく、全く新しい建築のカタチとなっています。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感と、力の伝達を受け持つ「ブレース」が織りなす、インダストリアルで飽きの来ない空間のテイストも持ち味となっています。

LDK inc. 代表 玉田敦士

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

www.daytona-house.com

Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA



高架下にずらりと並んだガレージハウス群の威容と近未来感。このガレージから心地よいエンジン音とともに、こだわりのバイクやクルマで飛び出す有様が、何故か建物や立地とシンクロして際立って秀逸でした。都市を使いこなしているイメージが鮮烈に表現されているからかもしれませんね。

近鉄×デイトナハウスのコラボプロジェクト『K・BLOC HANAZONO』完全竣工

前号でもご紹介しました近鉄奈良線高架下のガレージ賃貸住宅『K・BLOC HANAZONO』が遂に完全竣工。1棟につき2戸の家屋×6棟という構成です。全12戸の募集に対して、残すはあと1部屋となっています。自らの移動手段を住居内に格納するガレージ付き賃貸住宅は、コロナバニックによる社会の変化の中で、なお一層その有効性が

際立っています。加速するネットワーク社会の生き方として“遊動性”が、特に大事な要素になるからです。実際、住まいの“新しいカタチ”を硬質な鉄骨の素材感とともに表現しているGLBは、全国に増殖し始めています。それが日来的鉄道インフラと合体しているこの高架下企画は、今後も一層ニーズが高まるものと思われま

ふたを開けてみると、近未来は子供の時に空想したイメージとは若干違っていました。クルマが宙に浮きハイウェイが都市を何層にも縦横無尽に行き交う都市のイメージはいまだに実現していません。結局は案外、既存のインフラを掛け合わせて“新たな価値”を創造するという等身大の近未来が実際の答えだったのかもしれない。その意味でこの物件は近未来的なのです。

▼詳しくはこちら



まるでSF映画の舞台装置のようなハードボイルド感覚に満ち溢れた内部空間。高架下という都市の狭間にできた“エアポケット”のような場所に再び命を吹き込むという行為が、その印象を強めるのかもしれない。事務所等にも使えるため、利用用途は多種多様です。



デイトナ不動産

最近改めて注目されている源義経ゆかりの地である奈良県吉野。近鉄鉄道の終点、吉野駅から少し吉野川を上流に移動したところに、「YOSHINO GATEWAY」があります。築年数30年のRC4F建てのこの建物は、地元の人が限定的に利用するだけの存在で、残念な老朽化が進行していました。今回デイトナハウスのプロデュースでこのビルを再生させるプロジェクトがスタートし、吉野山の山桜が満開の4月中旬、コワーキング施設としてオープンしました。この建物はラーメン構造(柱と梁で主体骨格を形成)なので、特長のないRCの白い壁面は大部分を解体撤去。一旦柱と梁とスラブの建物にしました。そのうえで、軽量鉄骨パネルをカーテンウォールとして製作し、ガラスウォールが印象的な建築に仕上げました。義経から後醍醐天皇の南朝時代、そしてその後、幕末の新選組の残党まで、国が割れるような軋機には吉野は反対勢力の基地になってきた不思議な土地柄で、全く奥が深いのです。出入り口や異質なものを交換する“GATEWAY”という単語は、吉野を知るための拠点。そしてアウトドアやバイクツーリングなどの前線基地であるこの複合施設には最適な名称と言えるのです。



改修工事前の建物の全景。白いタイルの壁が老朽化して、風景に埋没していた。特徴のないファサード。



建物裏側に位置する玄関部分の外壁写真。タイルの壁を樹脂モルタルで固め、その上をモルタル補修して、グレーに塗装する一方で、開口部には木製ルーバーを施しています。

道路に面する1Fのガレージ部分のガラスウォールもデイトナハウスらしいシャープな鉄骨のアクセントで見事に蘇りました。また、ガラスが織りなす夜のファサードはことさら美しいのです。



YOSHINO GATEWAY 誕生!! 鉄骨フレームが老朽化ビルを最先端の複合施設に再生する

1 施設の受付カウンター建物背面からは2階にあるこのフロアが玄関になります。2 吉野川の河原を望む、開放的なカフェテリアのスペース。施設全体のコミュニケーションの場としても使われます。3 豊かなコワーキングスペースもこの建物の目玉。デイトナハウスオリジナルの鉄骨間仕切りパネルが空間のアクセントになっています。4 コワーキングスペース前の川に面する外廊下。



夏には花火見物も企画されている屋上のデッキスペース。気持ちいい空間です。